

範士八段関根村夫先生を悼んで

茨城県弓道連盟会長 柴田猛



会員の皆様のご協力を得て平成24年度の諸行事も滞りなく終えることができました。ここに紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

関根村夫先生には、さる2月16日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。先生は昭和2年にお生まれになり享年85歳でした。先生は昭和47年三和町（現古河市）の体育協会主催の弓道教室に学んだことがきっかけになり弓道の道にはいられました。当初は中澤龍教士に師事し、後に矢吹三郎範士の指導を受けられました。努力の成果がメキメキと表れ昇段、昇格し、平成10年5月八段を取得、12年5月に範士に推挙されました。この間、茨城県弓道連盟理事長（平2～7年）、副会長・顧問を歴任。全日本弓道連盟評議員、中央審査員、中央講習会講師を任命され、弓道連盟発展・充実に多大な貢献をされました。先生のご功績に対し11年、市から体育功労賞、21年に文部大臣表彰、22年旭日単光章の叙勲の栄に浴しました。

先生が常に穏やかな態度で接し、弓の指導に於いても分かりやすく丁寧に話されている姿が目につかんでまいります。

関根先生は昭和47年（45歳）から弓道を始め、昭和57年（55歳）に7段に昇段されています。先生の弓道への熱意と努力が実を結び弓の道に入ってから10年で7段取得という素晴らしい記録を残されました。

古い話になりますが三段跳びの世界記録保持者であるウイリーバンクス（今年3月来日）は中京大学での講演で、日本人は世界チャンピオンにはなれないと言っていました。なぜなら①日本人は高い目標がない②他人と違うことをする勇気がない③失敗したらイケないという気持ちが強すぎる④自分自身に自信がないと話しています。

関根先生は高い目標を持ち自分を超越する世界への挑戦をし、一箭一箭に真心をこめて稽古し、己を克服して成し遂げた素晴らしい先生でした。

「継続は力なり」と言われますが先生の後に続く私たちは先生の業績に近づくべく精進努力をしたいものです。関根先生どうぞ向こうの世界から私たちを見守っててください。

関根先生のご冥福をお祈りいたします。

昨年の県外大会を振り返って見ると国体ブロック予選では成年男子（久保田亮（日製日立）大森陽平（蒼藤）山口純（蒼藤））が予選を通過して本国体に出場することができました。本国体（岐阜県恵那市）では遠的4位に入賞。全国教職員大会団体3位（飯塚尚人（新利根）、辻尚宏（土浦亀城）、後藤裕一（土浦亀城））、全国自衛隊弓道大会では三四段

の部2位大崎優、隊友の部2位大貫富士雄（小川）。明治神宮大会称号者の部優勝橋本眞也（水戸）。第30回全国高校選抜大会女子個人3位菅谷円美（土二高）第31回全国高校選抜大会女子団体5位清真学園。（以上全国大会のみ）それぞれの入賞おめでとうございます。ここ3年間全弓連主催の成績は振るわず点数も伸び悩んでいます。更なる精進を期待いたします。

他方県外審査に目を向けてみると、錬士10名、教士1名、6段9名、8段（天冨子）1名の21名の合格でした。昨年は13名、22年は18名でしたが少しずつ合格者数が増加してきていますが、会員各位の更なる精進を願うものです。

今年度の全日本弓道連盟の指導方針は「基本を大切にすること」です。教本第一巻を読み直して射法八節・基本体を確認していただきたいと思います。従って、執り弓の姿勢・立ち方・歩き方・坐り方・矢番え動作・射法八節・開き足・入退場・足捌き等は審査の対象になります。十分稽古をして射品射格の顕現に努め審査に臨んでください。

努力目標は昨年同様ですが以下のように考えております。

- 1 競技会・講習会への積極的参加を
- 2 射法射技・体配の向上に努める
- 3 弓道人口の底辺拡大に努める
- 4 弓道を通して自己実現に努める

平成31年には茨城国体が開催されます。何かと忙しくなります。25年度から本格的な準備期間に入ります。会員皆様のご協力をお願いします。